

職場を撮影・編集したビデオを活用した 職場巡視トレーニングプログラムの開発

主任研究者	熊本産業保健推進センター	所長	北野 邦俊
共同研究者	熊本産業保健推進センター	基幹相談員	上田 厚
	熊本労災病院	前院長	小川 道雄
	熊本大学大学院生命科学研究部	教授	原田 幸一
	熊本大学大学院生命科学研究部	助教	皆本 景子

1 はじめに

職場巡視は産業保健管理の基盤となる手段であり産業医、衛生管理者など産業保健スタッフの必須の業務である。そのため、職場巡視研修は、産業保健スタッフの現地研修における必修項目である。しかしながら、原則として企業は昼間稼働しており、生産活動上の機密の保持等による研修地点の制約、研修時間の設定等、受け入れ工場の事情に加え、それに伴い実習参加者も様々な制約を受け、実習受講者の人数においても研修内容の質にも、適切かつ十分な研修の機会を作るためには様々な問題がある。

一方、労働安全衛生マネジメントシステム（ILO-OSH2001）の導入に見られるように、産業保健活動のあり方も、参加型、チーム編成、PDCA サイクルの導入といった包括的、系統的な展開が求められている。

このような視点から、今回熊本産業保健推進センターは、産業保健管理担当者（産業医、衛生管理者等）に、現場の作業特性に従って効果的な職場巡視が出来るように知識とスキルを向上させるためのトレーニングプログラムを開発する調査研究事業を企画した。

2 方法

本事業は以下の4つの過程で構成されている。

（第1ステップ）

本調査研究チームにおいて、労働安全衛生マネジメントシステム（ILO-OSH2001）を取り入れた職場巡視のトレーニングプログラムの枠組みを設定した。

（第2ステップ）

職場巡視の教材として、作業現場の特性に応じた効果的な職場巡視を実施するために必要な作業現場の様子をビデオで撮影編集した。今回の対象は、事務系職場（新聞社 編集印刷作業）とした。撮影

に当たっては、対象職場のスタッフと今回のグループワークメンバーが、トレーニングの趣旨、撮影に当たっての注意事項（作業や企業のプライバシー、職場の機密事項等）について十分に検討してから実施した。

（第3ステップ）

第1段階で設定した枠組みに従い、撮影・編集したビデオを教材にして、効果的な巡視研修が出来るためのトレーニングプログラムを完成した。

（第4ステップ）

熊本県医師会が企画した産業医研修会（特定科目専門研修会）において、作成したビデオを教材にして、開発した研修プログラムを実施し、その有用性を検証した。

3 結果と考察

（第1ステップ）

*職場巡視トレーニングプログラムの枠組みの設定

トレーニングプログラムの構成は、①PDCA サイクルによる職場改善の概念と職場巡視の実践に関する基礎的事項の学習、②撮影・編集したビデオを見ながら、職場の安全・衛生に関するチェックリスト（産業衛生学会産業疲労研究会が作成したチェックリスト）に従った、研修参加者各自による当該職場の安全・衛生における評価、③グループワーク（グループ内討議/グループ間討議）による対象職場の安全・衛生の評価と対策のまとめ、の3段階の構成となった。

（第2ステップ）

*作業現場のビデオ撮影と編集

- A 新聞社における夕刊の編集と印刷作業 -

撮影前に、対象企業を訪問し、職場を視察し、それぞれの部署で写真撮影し、職場の衛生管理担当者および産業医（囑託）と職場の概要や安全・衛生の

実態や問題点、撮影のポイント／不許可の点について十分打ち合わせを行い、そのあとで撮影と編集を行った。最終的に編集されたビデオを職場の担当者へチェックしてもらい、今回の作成ビデオとした。編集されたビデオは、「ビデオを活用した職場巡視トレーニングー労働の人間化と快適職場：産業医活動の新しい視点ー」のタイトルで、「全行程」、「部署別」、「過程別」の3つの内容で構成された（付録：DVDービデオを活用した職場巡視トレーニング）。

（第3ステップ）

第1段階で設定した枠組みに従い、それぞれの職場について、研修受講者がグループワークの形式で効果的な職場巡視の研修が出来るためのトレーニングプログラムを完成させた（表1）。

表1 職場巡視トレーニングプログラム：産業医等研修会／職場安全衛生委員会

<p>1. イントロダクション：オリエンテーション</p> <p>1) 基調講義：職場巡視の基本的事項</p> <p>①産業保健の今日的課題と展開、②グループ討議のポイントと進め方、③チェックリスト／職場マップの使い方</p> <p>2) ビデオを活用した職場巡視トレーニングプログラムの概要と趣旨の説明</p> <p>2. ビデオによる職場視察：事例検討</p> <p>1) 対象職場の全行程のビデオ供覧と職場の規模、経営／安全衛生活動の概要説明</p> <p>2) 部署別／過程別動画のビデオ供覧とそれぞれの評価のポイント説明</p> <p>3) 各自、チェックリストに所見を記入</p> <p>3. グループ討議</p> <p>1) グループ内討議</p> <p>①チェックリストによる作業／作業環境の評価、②安全衛生職場マップの作成、③改善に向けての具体的提案</p> <p>2) 全体討議：グループ間討議</p> <p>①グループ発表とグループ間討議、③まとめ：対象職場の安全・衛生の評価と対策、③研修会担当者による総括</p>

（第4ステップ）

* 作成した研修プログラムの有用性の検証
今回採録編集したビデオを用いた職場巡視トレーニングプログラム（表1）を、熊本県医師会産業医研修会（特定科目専門研修会）において試行し、その有用性を検証した。

当研修会（2回に分けて実施）の受講者は合計183名であった。研修会の評価に関する質問表の回答結果を見ると、1. 「研修内容」については、「参考になった」、95名（98%）、2. 「テキスト・教材等」については、「参考になった」、90名（86%）、3. 「カリキュラム」については、「良い」59名（57%）、4. 「講師」については、「分かりやすかった」77名（73%）、5. 「研修会の有益性」については、「有益」96名（92%）と、いずれの項目についてもおおむね高い評価が得られた。自由記述では、「現場のビデオでの研修は興味深かった」、「実地研修の昼間の研修の参加は困難なので、このような研修はありがたい」、「実際の現場を見ていないので、チェックリストが記載しにくかった」、「ビデオの中にQ&A形式をいれてもらえると分かりやすい」などのコメントが見られた。

4 まとめ

今回の調査研究の目的は、産業保健管理担当者（産業医、衛生管理者等）に、現場の作業特性に従って効果的な職場巡視が出来るように知識とスキルを向上させるためのトレーニングプログラムを開発することにある。このために、熊本産業保健推進センタースタッフを中心とした作業チームを編成し、研修教材を得るためのビデオ撮影に際し、対象職場の安全・衛生担当者との十分な打ち合わせを重ねることによって作業を進めたため、われわれ産業保健推進センタースタッフの資質の向上につながるとともに、熊本県医師会、撮影対象職場とセンターの良好なネットワークの形成に貢献することが出来たのではないと思われる。

なお、本研究の結果については、平成23年度に本産業衛生学会九州地方会にて発表する予定である。また、本産業保健推進センターの研修会に、産業医、衛生管理者、産業看護職者を対象にしたグループ研修「これからの時代に即した職場巡視トレーニング」として実施する予定である。